

# 若者の性知識の実態

## Report on Sexual Knowledge among Adolescence

小 泉 直 子  
Naoko KOIZUMI

善 積 京 子  
Kyoko YOSHITUMI

### I 序

性商品，性情報が氾濫し，一見，性抑圧の社会から解放の社会へ移行してきたかのような印象を人々に与えている。はたしてそれは真実であろうか。“性”を“生”と結びつけ，その人の人権の大切な部分としてみなすセクシュアリティ教育が，学校・家庭において行われているであろうか。現代の若者は，性刺激を洪水のごとく浴びる中で，何でも知っているかのように見える。が，実際には正確な知識をもたないままに，マスコミや友達同士のあいまいな情報に振り回されているのではないだろうか。本稿では，若者の性知識の実態を明らかにし，今後の学校でのセクシュアリティ教育のあり方について考察してみたい。

性知識の実態の報告は，「性知識調査」の統計的データと小泉担当の保健の授業での学生の感想文を中心に行なう。本校での「性知識調査」は，1年生のプレゼминаールの授業の一環として，『中絶—北と南の女たち』のフィルム上映時（1986年6月21日）に実施された。一方，四年制大学のデータは，善積が1986年文部省科学研究費補助を受けて実施した『性意識に関する調査』（大阪府下4年制大学7校，回答者女子876人，男子710人）から得た。「性知識調査」の質問項目は，善積の主宰する「女と男の関係を考える会」が1985年実施した「性知識調査」の質問をそのまま利用している。この会の調査報告はすでに，『新しい家庭科 We』の1987年4月号と5月号に掲載されている。本稿は，これらの報告をもとにしてなされていることを，あらかじめ断わっておく。

### II 調査報告

#### (I) 各設問の解答結果

図1，図2の性知識調査の結果に基づいて，学生の感想を含めながら，性知識の実態をみてみよう（設問の詳細は末尾の付録を参照のこと）。

〔問1〕と〔問2〕は，卵子と精子の体内での受精できる生存時間について，尋ねたも

## 大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院「研究集録」第7号(1987年)

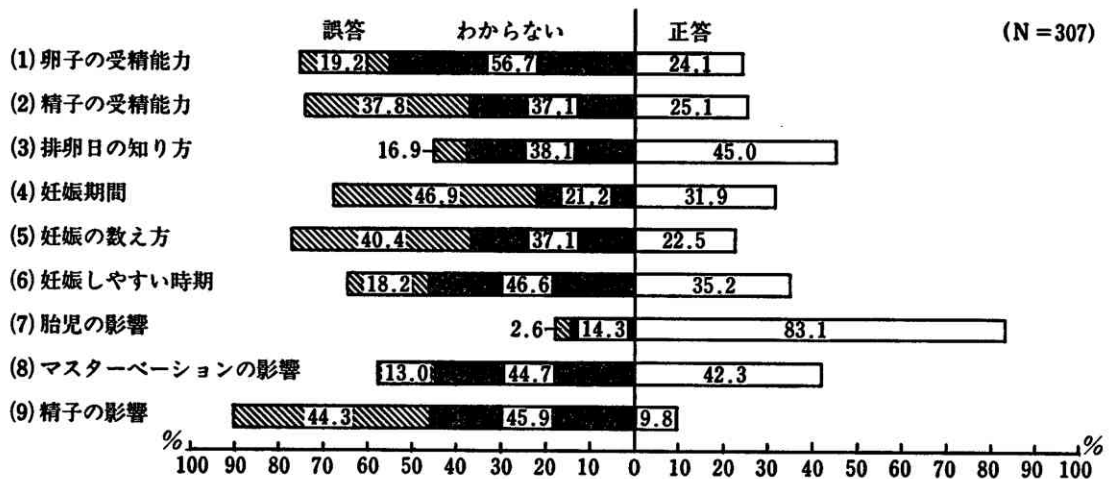


図1-1 性の実態調査〔(1)～(9)〕

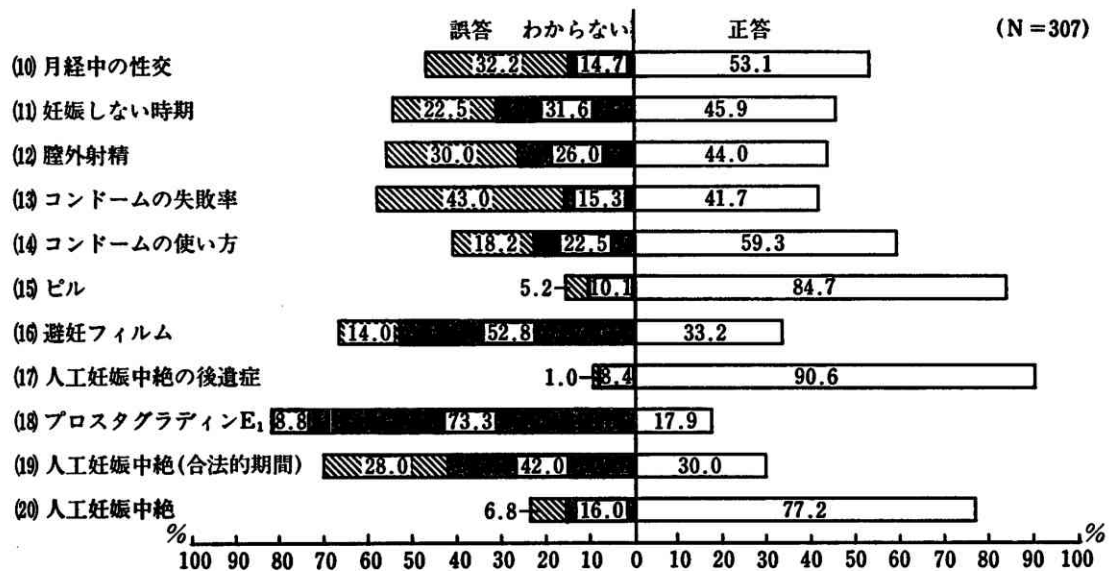


図1-2 性の実態調査〔(10)～(20)〕

のである。ある学生が「精子の生きている期間等は、中学高校で習ったことと全く違って、びっくりした」と書いているように、従来の教科書では、卵子の寿命は約24時間、精子は約3日間となっている。しかし、最近の研究によると、排卵後の卵子の寿命は8～10時間、精子は7日から10日間ぐらい生体で生存するといわれている<sup>(1)</sup>。

解答をみると、正答率は〔問1〕が24.1%、〔問2〕が25.1%と低く、〔問1〕では「わからない」が56.7%と多く、〔問2〕では誤答と「わからない」がほぼ同率で、正答率を上回っている。新しい知識の織込まれた教科書で指導がされていないことや、こうした教育を全く受けていない者が少なからずいることなどが、推測される。

〔問3〕の排卵日を知る方法の正解は、「基礎体温計で測定し、急に下降する日を排卵日とする<sup>(2)</sup>」であるが、正答率は45%にすぎず、「わからない」が38.1%も存在している。

若者の性知識の実態

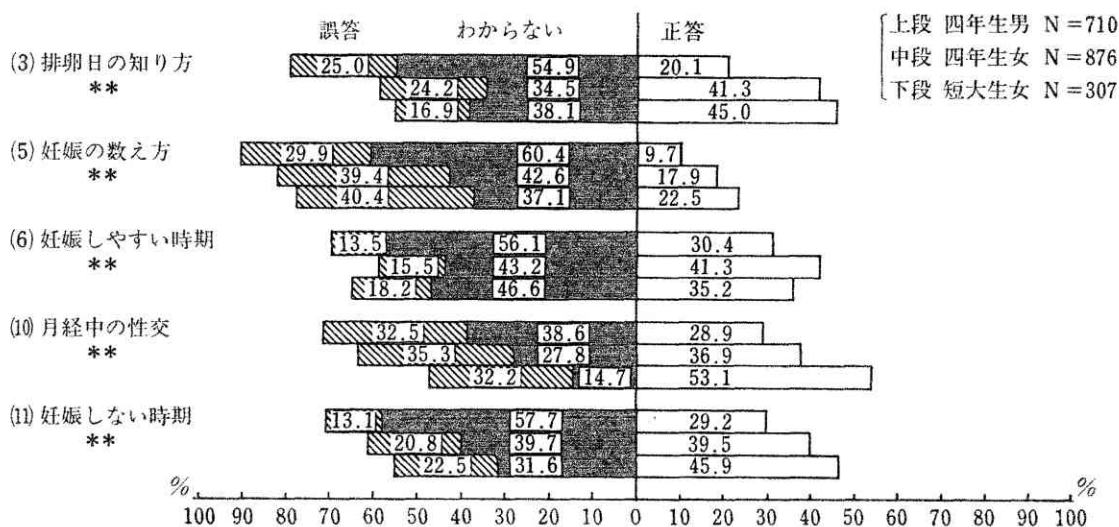


図2-1 四年制男女・短大女の性の実態調査

χ<sup>2</sup>検定 P>0.0001 \*\*\*  
P>0.001 \*\*  
P>0.01 \*

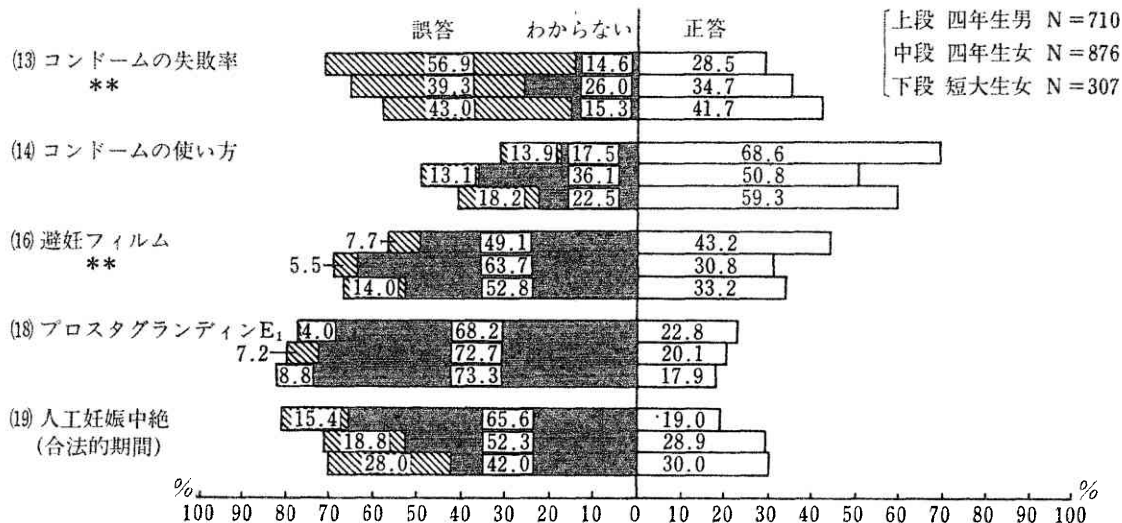


図2-2 四年制男女・短大女の性の実態調査

χ<sup>2</sup>検定 P>0.0001 \*\*\*  
P>0.001 \*\*  
P>0.01 \*

解答者は女子であり、排卵日と月経を繰り返し体験しているにもかかわらず、性のしくみについて理解が充分でないことは注目に値する。

四年制大学の男女との比較では、四年制女子は短大女子と同様な傾向をみせ、正答率は41.3%であり、四年制男子の20.1%より高い。誤答率は、四年制男女が、ほぼ同率であるが、「わからない」男子が54.9%と多く、女子の生理への関心が薄いことが分かる (χ<sup>2</sup> 検定 P>0.001)。

〔問4〕の妊娠の期間は、よく「十月十日」と言われ、約10ヶ月と一般に理解されているむきもある。しかし、実際は、9ヶ月と数日で、排卵日から分娩日までの在胎日数は、平均265日<sup>(3)</sup>である。このような事情により、正答率は31.9%と低く、46.9%も誤答しており、昔の表現にとらわれている人が多いことがわかる。

## 大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院「研究集録」第7号（1987年）

〔問5〕の妊娠期間は、W. H. Oによると、最終月経第一日を妊娠第一日として計算し、満の日数または週数で数えられる。<sup>(4)</sup>したがって、問題の28日月経周期の場合、最終月経の週は0週、二週目に排卵・受精、次の月経予定日が、第四週の一日目であるから、「月経予定日より十日目」は、第五週になる。

妊娠期間の教え方を知る事は、胎児の成長、中絶の時期等を知る基礎であるが、正答率は22.5%と低く、40.4%が誤答で、人工妊娠中絶の時期など、間違って認識している者が多い。

四年制大学の男女を比較してみても、短大女子と同様な傾向で、正答率は低く、特に四年制男子は、わずかに9.7%で、「わからない」が60.4%というあり様で、男子は妊娠についての理解が少ないといえよう ( $\chi^2$ 検定  $P > 0.001$ )。

〔問6〕は、避妊する際の基本的知識である「妊娠する可能性の高い日（正答は排卵七日位前から排卵一日後まで）」<sup>(5)</sup>についての設問である。正答率は35.2%と低く、現在の学生は、性情報が氾濫し、性についてよく知っているように思われがちだが、実際には「わからない」が46.6%と多く、妊娠については十分に理解されているとはいいがたい。

四年制大学の男女を比較すると、「わからない」が、男子56.1%、女子43.2%と多く、短大女子と同様な結果である ( $\chi^2$ 検定  $P > 0.001$ )。

〔問7〕の三ヶ月までの胎児の放射能や薬の影響については、正答率が83.1%と高く、妊娠初期の胎児への影響については、よく知られている。

〔問8〕のマスタベーションは、性的に発達した男女にとって、正常な反応であり、肉体的に悪影響はなく、日本性教育協会1981年調査によると20歳の男子98%、女子41%がマスタベーションを体験している。<sup>(6)</sup>

本調査では、正答率は42.3%で、「わからない」44.7%とほぼ同率である。

〔問9〕の「長期にわたり射精されずに体内に留まる精子」の設問では、精子は再び体内に吸収されるので、悪い影響はない。<sup>(7)</sup>解答をみると、正答率は9.8%ときわめて低く、誤答率は44.3%、「わからない」は45.9%に及んでいる。ある学生は、「男子が精子をずーと貯めていたら、身体に悪いと思ひこんでいた。異性の身体のしくみについて全く分らなかった」と率直に感想を述べている。このように、学生のほとんどが女子の身体のしくみだけでなく、異性の身体のしくみも理解していないことがうかがえる。

〔問10〕の月経中の妊娠の可能性については、現在、「精子は女性の身体に入って一週間生存し、12日間生きていた」という記録も発表されている。したがって、12日間生きていれば、月経中の性交でも妊娠するといわれている。<sup>(8)</sup>

解答の正答率は53.1%と過半数を占めてはいるが、誤答率は32.2%もある。誤答者の中には「高校で生理中は妊娠しないと習った」と報告しており、古い知識での影響がみられる。

## 若者の性知識の実態

四年制大学の男女との比較では四年制男子は、正答率が低く、「わからない」が多い。四年制女子は、男子より正答率が高いものの短大女子より低く、誤答も35.3%ある ( $\chi^2$ 検定  $P > 0.001$ )。

〔問11〕は、妊娠しない時期についての質問である。若い女性の場合、高温期が一週間ぐらいしかなく、すなわち排卵から月経までが、一週間ぐらいということがよくある。また排卵や月経は、ストレス等で狂いやすいので、「月経予定日前十日間に妊娠しない」とはいえないのである。<sup>(9)</sup>

解答の正答率は45.9%、「わからない」が31.6%である。

四年制大学の男女比較では、女子に比べて男子の正答率は29.2%と低く、「わからない」は57.7%とかなり多く、妊娠への関心の低さを示している ( $\chi^2$ 検定  $P > 0.001$ )。

〔問12〕から〔問16〕までは、避妊に関する項目である。〔問12〕は、膈外射精という不確実で避妊とはいえない方法について尋ねたものであるが、正答率は44%で、30%は誤答している。

〔問13〕〔問14〕は、コンドームの安全性についての質問である。コンドームの実際上の失敗率は、ピル・ベッサリーと同率の10%ある。<sup>(10)</sup>この原因の一つは、精子が射精以前に粘液に混って少しずつ出ている為である。コンドームは、性交の最初から最後まで装着しなければならぬ<sup>(11)</sup>のであるが、そのことが余り知られていない。

正答率は〔問13〕が41.7%、〔問14〕は59.3%で、ほぼ半数が理解しているものの、コンドームは「最も失敗率が低い」と誤認している者も43%存在する。

四年制大学の男女の比較では、〔問13〕の失敗率の認識では、男子は女子よりも低く28.5%しか正答をしておらず、56.9%が誤答である ( $\chi^2$ 検定  $P > 0.001$ )。〔問14〕のコンドームの使い方の正答率は、男子が68.6%で女子よりも多い。コンドームについては、失敗率よりも使い方のほうが、よく理解されている。

〔問15〕のピルについては、正答率が84.7%と高い。「ピル解禁」といわれ、三年後には、ホルモン低用量のピルが避妊用として医師の処方箋により入手が可能と新聞紙上を賑わしている問題のため、よく知られている。

〔問16〕の避妊フィルムについては、殺精子剤として、界面活性剤が使われており、<sup>(12)</sup>安全面に疑問があるにもかかわらず、最近、雑誌等で大々的に宣伝されているものである。解答をみると、正答率は33.2%と低く、過半数は「わからない」状態である。

四年制の男女の比較をすると、男子は正答と「わからない」が、ほぼ同率であるが、女子は、「わからない」が多く、特に四年制女子の63.7%が「わからない」であり、まだあまり知られていないようである ( $\chi^2$ 検定  $P > 0.001$ )。

〔問17〕の妊娠中絶を受けると、その後不妊や流産をおこしやすいことについては、正答率が90.6%と高く非常によく知られている。「以前中絶したことがあるのですが、将来

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院「研究集録」第7号（1987年）

妊娠できるかどうか心配です」と悩む学生も存在する。

〔問18〕の中期中絶に使う人工流産剤プロスタグランディン E<sub>1</sub> についての項目は、正答率が17.9%と非常に低く、最近開発されたばかりなため、「わからない」が73.3%と多い。

四年制男女との比較でも同様の結果で、「わからない」が多い。

この人工流産剤プロスタグランディン E<sub>1</sub> は最近、「夢の流産剤」とマスコミで取りあげられたため、妊娠中期まで待って流産させる方が簡単などと誤解されている面もあるが、手術法は従来とかわらず、苦痛や危険をとまなうものである<sup>(13)</sup>。

〔問19〕の合法的な人工妊娠中絶期間を尋ねた項目では、正答は30%と低く、「わからない」は42%あり、中絶は妊娠第23週まで<sup>(14)</sup>という基本的知識に欠如がみられる。

四年制男女の比較においても、男子より女子の方が、正答率はよいものの、半数以上が「わからない」である。

〔問20〕の人工妊娠中絶を安全に受けられる時期（11週まで）<sup>(15)</sup>については、77.2%が正答で高率を示し、知識の定着がみられる。

## (2) 〔問1〕から〔問20〕の正答合計

〔問1〕から〔問9〕までの性のしくみについてまとめてみると、妊娠初期の胎児への影響に関する事以外は、「わからない」や誤答が多く、特に精子の影響はほとんど理解されていない。また、男子より女子の方が正答率が高い。

正解者については、全問正解者はおらず、最高が7問で、平均正答率は3.19問と非常に低く、性のしくみが理解されていないことが分る（表1-1）。

〔問10〕から〔問20〕の妊娠・避妊・中絶の知識については、ピルや危険の少ない人工妊娠中絶の時期及び後遺症についての項目に理解がみられるが、流産剤プロスタグランディン E<sub>1</sub> については、「わからない」が多い。また、男女の比較では、男女共に正答率は低い。コンドームの使い方や避妊フィルム等避妊用具に関する知識は、男子の方が女子よりやや多く理解されている。

正答率の平均は5.78問で、妊娠・避妊・中絶については過半数しか理解されていないが、性のしくみよりは、幾分正答率が高くなっている（表1-2）。

全問題の全平均率は、8.96問で、全問正解者はなく、20問中17問正解が1人（0.3%）で最高を示し、最低は全問不正解者で4人（1.3%）おり、図3のように、7問から12問正解の間に60%が位置している。

## (3) 性知識の情報源

性知識の情報は、男女共に8割以上が「雑誌」より得ており、次いで「同性の友人」「テレビ・ラジオ・映画」の順になっている。男子は女子よりもこうしたものから多くの情報を吸収している（図4）。学生は「外国のように幼い時から常識的に性を教育されないで、

## 若者の性知識の実態

表1-1 (1)～(9)項目正答合計点

得点	人数 (N=307)	%
0	14	4.6
1	35	11.4
2	68	22.1
3	73	23.8
4	46	15.0
5	35	11.4
6	22	7.2
7	14	4.0
8	0	0
9	0	0
	平均	3.19
	標準偏差	1.74

表1-2 (10)～(20)項目正答合計点

得点	人数 (N=307)	%
0	7	2.3
1	3	1.0
2	12	3.9
3	36	11.7
4	29	9.4
5	46	15.0
6	47	15.3
7	49	16.0
8	45	14.7
9	23	7.5
10	10	3.3
	平均	5.78
	標準偏差	2.28

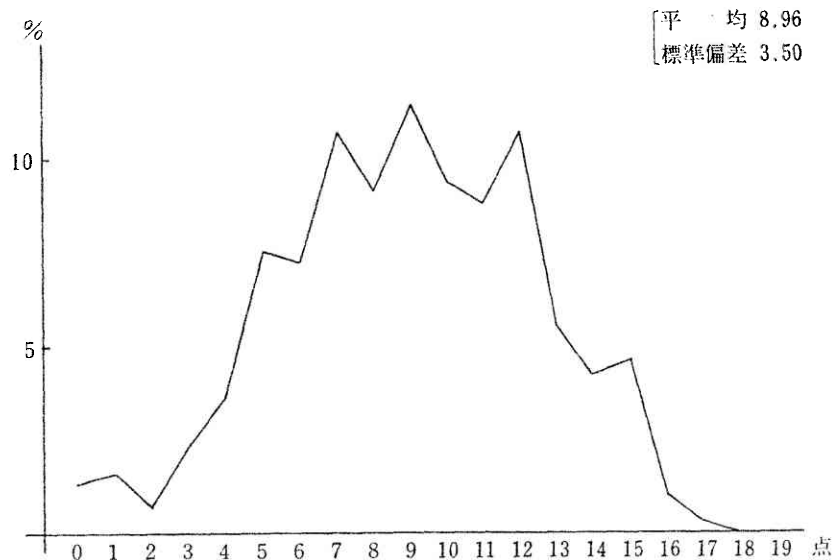


図3 性の実態調査全項目の正答合計点 (N=307)

雑誌等の間違っただ情報を得ていたもので、性についての正しい知識がなかった。こうゆう授業をもっとふやしてほしい」と述べている。性情報源として、主に、マスメディアにたよっているが、それらがしばしば興味本意であやふやな、時には全く間違っていることがあることを、調査結果は如実に示している。性について正しい知識を専門の機関や学校で受けたいと希望しても、「学校の授業」では、男子22.5%、女子44.3%しか実施されておらず、教育状況にも男女格差がみられ、男女共に正しい性知識を得る情報源が少ないことがわかる。

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院「研究集録」第7号（1987年）

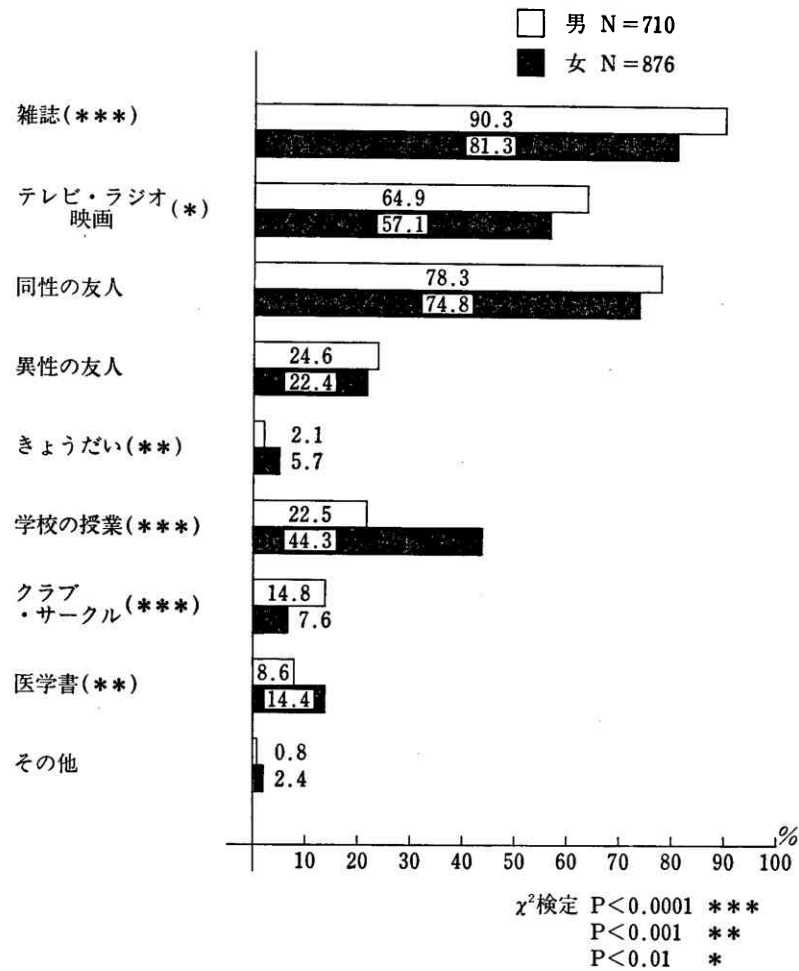


図4 四年制大学男女別性情報 (複数回答)

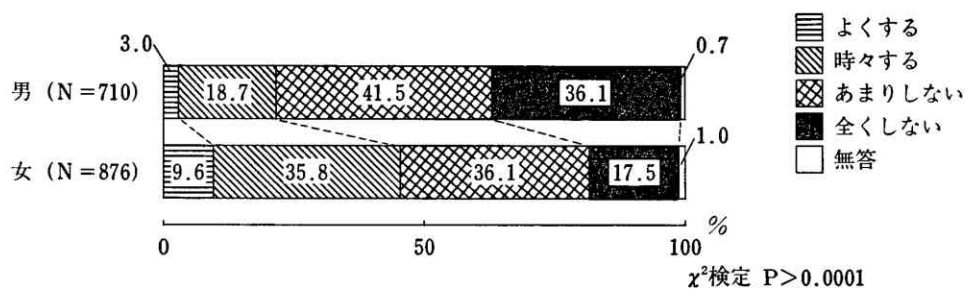


図5 異性交際についての親との会話 (四年制大学男女)

(4) 異性交際についての親との会話

四年制大学男女の異性交際について、親との会話は、男子77.7%，女子53.5%が、「あまりしない」「全くしない」状態である。異性交際について、フランクに話せるムードがなく、家庭での性教育は不十分であることが示されている。



## 若者の性知識の実態

## Ⅲ 考察——セクシュアリティ教育にむけて

以上の調査結果により、学生に性知識がなく、あまり性教育が施されていない実態が明らかとなった。そこで性教育の指導について、今後どのようにしたらよいかを考えてみよう。

性教育とは人間の“生”を教育することである。つまり、生殖の基盤となるセックスに留まるものでなく、人生の基盤のセクシュアリティにも及ぶ広がりのある教育である。

性＝生教育の指導は、単に若者の性行動をとりざたする狭い範囲の指導を示すのではない。たとえば、避妊について考えてみると、「生殖の為のセックスは、一生の間に一人の人間が平均2回ぐらいで、残りのセックスは生殖につながらない<sup>(16)</sup>」。性は、女性が閉経期までの長い年月を健康で暮せるかどうかという生き方の問題として捉えることができ、全ての年齢層にまたがるものである。そうは言っても、特に若い世代は、子を生み、性的に偏見を持たない社会形成者として、次の世代を育成する重要な立場にある。

しかし、現実の若者の性知識は、正しい情報を得ることなく、あやふやで歪んだ性を満載している雑誌に振りまわされており、未成年の人工妊娠中絶は、1980年1.9万(3.2%)<sup>(17)</sup>から、1985年2.8万(5.1%)へ増加しているのが実情である。

このような現状であるにもかかわらず、何故性教育は実施されてこなかったのだろうか。佐橋は、「大人の側には性交を恥すべきもの、隠すべきものという先入観がある<sup>(18)</sup>」と指摘している。多くのおとな達は、今なお性を陰湿に嫌悪すべきものにとらえ、性について考えることをタブーとし、「男女7歳にして席を同じくせず」式の教育観を引きづってきている。その当然の結果として、自己自身を開放できず、そのため、正しい性教育もフランクに実施できないでいる。

文部省は昭和61年に「生活補導における性に関する指導」を出しているが、その内容は性教育ではなく、性的に逸脱をおこしかけている中・高校生を補導する目的のものであり、依然として過去の純潔教育がはびこっている。

現在必要なことは、積極的に人生を“生きていく”力を育成するような教育を創造していくことであり、性知識に関しては“補導”よりも“科学的知識”を身につけさせていくようなセクシュアリティ教育である。

そのためには、性教育を実施する教員養成の確立が不可欠である。現在カリキュラムに性教育を導入した講義がなされているのは、ごく一部の大学に限られ、増加する様子はない。

また、現在教壇で性教育を指導している少数の教員においても、問題点が存在している。まず、新しい情報が入手しにくく、古い文献にたよる結果、正確性に欠ける。その上、継続的指導が不可能の為、性教育の定着が薄く十分な効果が得られない。正しい性情報の伝達システムを早急に作っていかねばならない。同時に、授業方法について研究・討議しあ

## 大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院「研究集録」第7号（1987年）

えるような、教員間のネットワーク作りも重要な作業である。充実した人生を生きるために、性の意味や命について考える授業をどのように展開していくか、教員同志の相互批判の場が大切であろう。

## 〔註〕

- (1) 鈴木秋悦『生殖医学トピックス』金原出版, 1980, p. 17.
- (2) 佐橋憲次・山本直英・村瀬幸治編集『人間と性の教育・②妊娠と中継, 避妊』あゆみ出版, 1983, p. 83.
- (3) 飯塚理八ら『不妊と妊娠の医学』立風書房, 1984, pp. 51~54.
- (4) 佐橋憲次ほか, 前掲書, pp. 29~30.
- (5) 鈴木秋悦, 前掲書, p. 17.
- (6) 日本性教育協会編集『現代性教育研究』2月号, 1982
- (7) 佐橋憲次他編『人間と性の教育・①月経と射精』あゆみ出版, 1983, pp. 180~186.
- (8) 河野美代子『さらば悲しみの性』高文研, 1985, p. 125.
- (9) 同 上, pp. 122~124.
- (10) 植田勝間『母と娘のための医学常識』朱鷺書房, 1982, pp. 86~87.
- (11) 河野美代子, 前掲書, p. 127.
- (12) 女のためのクリニック準備会編『ピル私たちは選ばない』1987, p. 32.
- (13) 河野美代子, 前掲書, pp. 107~112.
- (14) 北沢杏子『ひらかれた性教育3』テーニー出版, 1985, p. 211.
- (15) 同 上, p. 211.
- (16) 小倉千加子『性はどう教育されているか』性の研究会講義要旨, 大阪府立婦人会館, 1987
- (17) 厚生省大臣官房統計情報部編『優生保護統計報告』1985
- (18) 佐橋憲次「発達段階に応じた性教育」『セクシュアリティ』ペリネイタルケア第6巻, メディカ出版, 1987, pp. 185~188.

## 付 録

## 性知識についての調査

第 学年（1. 男・2. 女）

〈お願い〉

この調査は、みなさんが性についてどのくらい正確な知識をもっているかを知るために行われるものです。ありのままを答えてください。

---

次の文章を読んで適当なものを一つ選び○をつけてください。

- (1) 卵子は排卵後8～10時間位受精能力があると言われている。  
 (1.) はい 2. いいえ 3. わからない
- (2) 精子は射精後7～10日間位生きていると言われている。  
 (1.) はい 2. いいえ 3. わからない
- (3) 排卵日はどのようにして知ることができるか。  
 1. 前の月経が終わってから7日目が排卵日である。  
 2. 前の月経が終わってから10日目が排卵日である。  
 (3.) 基礎体温を計って急に下がっている日が排卵日である。  
 4. 医者でみてもらわないと知る方法はない。  
 5. わからない。
- (4) 妊娠期間は、よく「十月十日（とつきとうか）」と言われるように、310日間である。  
 (1. はい (2.) いいえ 3. わからない)
- (5) 28日ごとにきちんと月経のあった女性が、月経が10日遅れたので医者へ行った。もし、妊娠していたとすれば、この時、妊娠第何週とかぞえるか。  
 1. 第一週 2. 第二週 3. 第三週 4. 第四週 (5.) 第五週 6. 第六週  
 7. わからない
- (6) 性交をした時、排卵日の7日位前から排卵日の1日後位までが最も妊娠する可能性が高い。  
 (1.) はい 2. いいえ 3. わからない
- (7) 胎児が3ヶ月ぐらいまでならば、放射能や薬の影響は受けない。  
 (1. はい (2.) いいえ 3. わからない)
- (8) マスターベーション（自慰）をひんぱんにすると肉体に悪い影響を与える。  
 (1. はい (2.) いいえ 3. わからない)
- (9) 男性が精子を体に長くためていると体に悪い影響を与える。  
 (1. はい (2.) いいえ 3. わからない)

## 大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院「研究集録」第7号（1987年）


- (10) 月経中は性交しても妊娠することはない。  
 (1. はい ②. いいえ 3. わからない)
- (11) 次の月経予定日の前10日間は妊娠しない。  
 (1. はい ②. いいえ 3. わからない)
- (12) 性交時、射精しそうになった時、ペニスをちつから出して射精すれば妊娠することはない。  
 (1. はい ②. いいえ 3. わからない)
- (13) コンドームはもっとも失敗率の低い避妊方法である。  
 (1. はい ②. いいえ 3. わからない)
- (14) コンドームは射精する直前につければ妊娠することはない。  
 (1. はい ②. いいえ 3. わからない)
- (15) ピルは避妊効果が高く、医者診断書がなくても薬局で買える。  
 (1. はい ②. いいえ 3. わからない)
- (16) 避妊フィルムは安全性が高く、これを使うと妊娠することはない。  
 (1. はい ②. いいえ 3. わからない)
- (17) 人工妊娠中絶を受けると、その後不妊や流産をおこしやすくなるといわれている。  
 (①. はい 2. いいえ 3. わからない)
- (18) 最近、“夢の流産剤”（プロスタグランジンE<sub>1</sub>）ができたので、妊娠中期まで待つて流産させる方が簡単になった。  
 (1. はい ②. いいえ 3. わからない)
- (19) 人工妊娠中絶が合法的にできるのは妊娠第23週までである。  
 (①. はい 2. いいえ 3. わからない)
- (20) 人工妊娠中絶を受ける場合、より危険の少ない方法でできるので、できるだけ早く（11週までに）医者へ行く方がよい。  
 (①. はい 2. いいえ 3. わからない)

\*性のことで、悩んでいることや、授業で教えてほしいことがあれば、書いてください。

○印が正解